

# 地域支え合い活動事例集 (団体別詳細)

千葉県内で活動している市民活動団体へのアンケート調査より、活動評価の高い団体等を抽出し個別調査を実施。その結果、先進的な取り組みを行っているとして評価された団体を掲載しています。

No.	団体名	市町村区分	メインの活動	頁	No.	団体名	市町村区分	メインの活動	頁
1	ちば地域再生リサーチ	千葉市	サロン活動	P29-30	23	宅老所 虹の家	我孫子市	見守り活動	P73-74
2	地域のたすけあい市川ユースアイ協会	市川市	サロン活動	P31-32	24	浦安市老人クラブ連合会	浦安市	見守り活動	P75-76
3	富来田ふれあいの会	木更津市	サロン活動	P33-34	25	八街市社会福祉協議会	八街市	見守り活動	P77-78
4	常盤平岡地自治会	松戸市	サロン活動	P35-36	26	トータルライフサポート	千葉市	研修等の人材育成	P79-80
5	茂原市社会福祉協議会	茂原市	サロン活動	P37-38	27	東総権利擁護ネットワーク	銚子市	研修等の人材育成	P81-82
6	流山ユース・アイネット	流山市	サロン活動	P39-40	28	ユースアイやちよ	八千代市	研修等の人材育成	P83-84
7	C&Cクラブ	流山市	サロン活動	P41-42	29	東葛市民後見人の会	我孫子市	研修等の人材育成	P85-86
8	鴨川市社会福祉協議会	鴨川市	サロン活動	P43-44	30	秋桜	印西市	研修等の人材育成	P87-88
9	富津市社会福祉協議会	富津市	サロン活動	P45-46	31	生活クラブ	佐倉市	インフォーマルサービスの提供	P89-90
10	ふれあい大松	白井市	サロン活動	P47-48	32	地域創造ネットワークちば	千葉市	インフォーマルサービスの提供	P91-92
11	恵み野会	富里市	サロン活動	P49-50	33	若松台三丁目自治会	千葉市若葉区	インフォーマルサービスの提供	P93-94
12	南房総市社会福祉協議会	南房総市	サロン活動	P51-52	34	法典ひまわりたすけあいの会	船橋市	インフォーマルサービスの提供	P95-96
13	美郷会	山武市	サロン活動	P53-54	35	たすけあいスプーン	野田市	インフォーマルサービスの提供	P97-98
14	住み続けたいまちづくりの会	大網白里市	サロン活動	P55-56	36	なのはな会	野田市	インフォーマルサービスの提供	P99-100
15	千葉市社会福祉協議会小中台西地区部会	千葉市	見守り活動	P57-58	37	佐倉市社会福祉協議会	佐倉市	インフォーマルサービスの提供	P101-102
16	大宮台自治会	千葉市若葉区	見守り活動	P59-60	38	習志野市社会福祉協議会	習志野市	インフォーマルサービスの提供	P103-104
17	坪井地区社会福祉協議会	船橋市	見守り活動	P61-62	39	住まいるへるぶ	柏市	インフォーマルサービスの提供	P105-106
18	館山市社会福祉協議会	館山市	見守り活動	P63-64	40	デイヘルプ	我孫子市	インフォーマルサービスの提供	P107-108
19	幸谷町会	松戸市	見守り活動	P65-66	41	鎌ヶ谷市社会福祉協議会	鎌ヶ谷市	インフォーマルサービスの提供	P109-110
20	矢切地区社会福祉協議会	松戸市	見守り活動	P67-68	42	四街道市社会福祉協議会	四街道市	インフォーマルサービスの提供	P111-112
21	松戸市明第一地区社会福祉協議会	松戸市	見守り活動	P69-70	43	山武市社会福祉協議会	山武市	インフォーマルサービスの提供	P113-114
22	東金市長寿の会連合	東金市	見守り活動	P71-72	44	日替わりシェフの店くらそう	四街道市	その他	P115-116
					45	善隣会	香取市	その他	P117-118

※「広報誌」の表記について、団体によっては「広報紙」と表記されているものもあるが、ここでは「広報誌」の表記に統一して掲載しています。  
※掲載内容は2012年12月時点のものになります。

# 1. ちば地域再生リサーチ

## (1) 団体の概要

■ 団体区分			■ 団体名
① NPO法人	3 任意団体	5 地区社協	ちば地域再生リサーチ
2 自治会・町内会	4 社会福祉法人	6 その他	
① 団体の設立目的			
長期的・持続的・総合的な視点に立ち、市民、公共団体、企業、大学が地域再生や新たなまちづくりの具体的な目標像を共有し、その実現に向け連携して、調査・計画立案・推進をすることによって、まちづくりと地域再生を実践することを目的として設立。			
② 活動開始時期	③ 活動エリア	④ スタッフ数	⑤ 運用実績(利用者数)
2003年8月	千葉県美浜区全域	10人	年間:200人以上 ※毎日稼働:多い日には10人以上が利用

### [主な活動内容]

- ・暮らしのサポート: 高齢者等の買物サポート 高齢者等自宅の掃除や日常生活上で、できなくなったことの手伝い。  
→ 買物サポートは事務所に窓口を置き、スタッフによる御用聞き体制を整備。高齢者等は自宅にそのまま利用できる。  
また、同じ窓口で家事の要望も受けつけるサービス。料金は配達料(300円)+手数料。
- ・地域とのつながりの場の提供: コミュニティづくり、サークルをつくりたい人への支援。  
→ コミュニティづくりは、事務所と同じショッピングセンターの空き部屋を、2部屋借りている。1室は「ふれあいネットカフェ」(無料)で2012年4月から稼働。用途としては、「自由におしゃべり」、「自由にネットを利用」、「自由に趣味の実施」などをするほか、時には絵や写真のギャラリーとして使用される場合もある。  
もう1部屋は、「クラカラ」と名付けた集会室で、使用目的によって無料の場合と有料の場合がある。
- ・住まいのサポート  
→ 海浜ニュータウンの住まいに関する様々なジャンルにおいて、いつまでも住みやすくする活動。  
リフォームについては、ふすまなどのリフォームは講習を受けた地域の主婦も参加している。  
水回りやバリアフリーのリフォームなどは、事務局の3人に加えて地域の職人にも依頼しているが、これは依頼者に料金を支払ってもらう活動なので、極力無駄を省き経費を安くするよう努めている。

## (2) 活動状況

- ・千葉海浜ニュータウンを活性化し、高齢者が安心して終の住処とすると同時に、新たな居住者を地域に呼び込むような魅力ある再生と地域づくりを行うことを目標として、2003年8月に千葉大学の建築系の教員5名によって設立・活動を開始したのはじまりとなっている。
- ・現在までの約10年間の地域での活動を通じて必要なことが見え、日常の地域の人達とのふれ合いの中で、やるべきことが形になってきた。
- ・地域支え合い活動では、自治会がやっていた色々な活動に協力してきて、自治会が高齢化して機能できなくなった部分を当団体が引き継いでいる。
- ・なお、買物サポートのサービス開始については、過去に、九州や大阪の過疎地にヒアリングに行ったことがあり、そこで得た知識を参考にしている。
- ・運営上の資金源としては、普段の財源は当団体が請け負っているリフォーム事業の収益で賄っている。

## (3) 他の団体等との連携関係と情報発信について

### ① 他の団体等との連携関係

- ・「自治会・町内会」「NPO法人」と連携している。
- ・カフェのイベントでは、立ち上げは自治会が担ったが、その運営は当団体が行った。このほか、自治会が主催している地域の祭りなども、運営、設営、放送、出店など全てを当団体でサポートしてきた。自治会の構成員が高齢化してきたため、これまで自治会が行っていたことを当団体に委託してくることが多くなってきており、今後当団体による支援は一段と必要になってくると思われる。
- ・連携関係にあるNPO法人として、最も関わりが深いのは「リニューアル技術開発協会」である。地域の居住者が住まいに関することで問題が生じた場合に、サポートしてもらっている。

## ②情報発信の状況

- ・「団体のHP」「新聞広告」「行政機関・公的団体のHP」「セミナー等での告知」で情報発信している。
- ・新聞については、広告としてではなく、活動内容を記事として取り上げられることが多い。
- ・また、行政機関のHPについては、区のHPに掲載させてもらっている。
- ・このほか、当団体のチラシをショッピングセンター内の数カ所に常時配置している。

### <サロン活動:集会室「クラカラ」>



### <活動内容のパンフレット>



## (4)活動における問題点と対処状況

### ①立ち上げ時に直面した問題点と対処状況

- ・問題点「スタッフの確保」「ノウハウ」
- ・新たなスタッフの確保はもともと簡単ではないため、活動内容に応じて育成するようにしているが、時間がかかるなどの問題がある。住まいのサポートではスタッフとなる主婦に襖の張り替えを教えるとい内容は、比較的短期間で育成可能だが、高齢者の生活をサポートするという内容に対応できるスタッフを育成することは難しい。
- ・こうした内容は、経験や感性、能力が必要となるため、誰でも対応できるということではないかもしれない。
- ・ノウハウについては、利用者を増やすためにチラシを配っても利用に結びつかないため、地域のニーズや信頼を得ることの難しさを感じている。

### ②運営時に直面した問題点と対処状況

- ・問題点「スタッフの確保」「ノウハウ」。
- ・スタッフの確保については、生活サポート支援の仕事は人材の質・人柄に頼るところが大きいが、高い能力・感性を持ったスタッフが事情で辞めたことがあった。サポートを受ける人達の中には、そのスタッフを目当てに依頼してくることがあり、「〇〇さんに会いたい」といった言葉を聞くことがあった。
- ・こうしたスタッフの確保については、志を高く持った人を幅広く探して確保・育成していくしかない。
- ・ノウハウについては、人材確保の方法や利用者への効果的な情報発信(宣伝・告知など)が課題。
- ・そのほか、御用聞きサポートでは、携帯端末を持って利用者宅にうかがうというシステムを考えており、その携帯端末を使って高齢者に買い物を楽しんでもらうことを想定していた。しかし、実際に使用してみると、商品がカテゴリ別になっていないなど、使い勝手が悪く、結局電話での注文の方が早いということになった。アイデアとしては良くても、技術面や経費などでうまくいかなかった。

## (5)取り組む上で先進的な点・工夫している点

- ・既に約10年活動を続けてきたこともあり、地域では比較的浸透している。ただ、域内の管理組合の中に知らない団体もあり、一段の認知浸透に努めたい。そのため、団体のHPだけでなく、公的な手段やマスコミ(活動をニュースとして取り上げてもらう)などを利用した情報発信にも注力している。

## (6)今後の活動に向けて

- ・自治会が高齢化してきており、自治会のイベントのサポートなど、当団体の役割は一段と大きくなってきている。
- ・また、東日本大震災をきっかけに、地域のコミュニティ力を高めたいという住民意識が高まってきていることもあり、当団体のこれまでの地道な活動をより深く知ってもらうことで、地域との繋がりを強めていきたい。

## 2. 地域のたすけあい市川ユーアイ協会

### (1) 団体の概要

■ 団体区分			■ 団体名
① NPO法人	3 任意団体	5 地区社協	地域のたすけあい市川ユーアイ協会
2 自治会・町内会	4 社会福祉法人	6 その他	
① 団体の設立目的			
市民によるたすけあいの福祉活動をすることで、地域住民が住み慣れた地域で、より快適に、自立して生活できるようにしていくことを目的としている。「困った時はお互い様」応援する人も受ける人もお互い対等な立場で助け合いを行う。			
② 活動開始時期	③ 活動エリア	④ スタッフ数	⑤ 運用実績(利用者数)
2000年10月 ※創立は1979年	市川市内 ※行徳・原木地区を含む	70人	1,030人 ※サロン活動

### [主な活動内容]

- ・たすけあい: 「体調が悪く、食事作り、掃除、買い物、洗濯などに困っている。」「家族が外出する間、見守りをして欲しい。」「産前・産後のお手伝いをして欲しい。上の子の世話もしてもらえたら・・・」といった内容への対応。
- ・介護保険のサービス  
介護保険支援事業: ケアプランを作成。  
介護保険訪問介護事業: ケアプランに沿ってヘルパーを派遣。
- ・サロン開催: 市川市市民税1%支援事業の一環として無料でサロンを開催。

### (2) 活動状況

- ・サロン活動  
→真間、行徳の2カ所を会場とし、ともに高齢者を対象としている。  
真間では、月2回、茶話会や歌を歌うなどの活動を行っている。  
行徳では、週1回、自治会とタイアップして自治会の提供する場所にて、介護に関する勉強会や手ぬぐいづくりなどの活動を行っている。
- ・インフォーマルサービスの提供  
→家事援助サービスは、介護保険サービスではカバーできない部分について、軽費有償ボランティアで行っている。  
高齢者を対象としているが、父子家庭、産後支援も行っている。
- ・地域支え合い活動の財源は、会費収入のほか、市川市の1%支援制度(個人市民税納税者等が支援したい団体を選び、個人市民税額の1%相当額等「団体の事業費の2分の1が上限」を支援)を活用している。
- ・当団体は創立以来33年の歴史があり、地域支え合い活動でタダでは気兼ねするので、安い負担で支え合うシステムをつくったのが始まりとなっている。
- ・活動に取り組む際には、スウェーデンの先進事例をもとに活動をスタートした人達があり、それを参考にした。
- ・立ち上げ時に資金はなく、入会金と年会費のみであった。メンバーの中の人脈を活かして新聞等のマスコミに情報を提供するなど、そのPR効果で会員数が増えてきた。

### (3) 他の団体等との連携と情報発信について

#### ① 他の団体等との連携関係

- ・「自治会・町内会」「地区社協」と連携している。

#### ② 情報発信の状況

- 「団体のHP」「県・市の広報誌」「市の1%支援団体になる事よっての広報」で情報発信している。

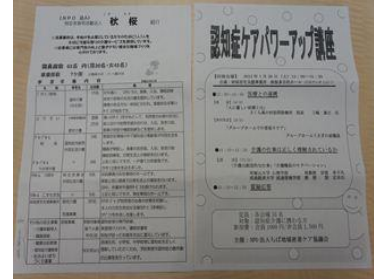
## ②情報発信の状況

- ・「新聞広告」「セミナー等での告知」「チラシの配布」で情報発信を行っている。

### <当団体の広報誌>



### <地域支え合い活動のチラシ>



## (4)活動における問題点と対処状況

### ①立ち上げ時に直面した問題点と対処状況

- ・問題点「地域住民の認知や理解」。
- ・地域住民の認知や理解については、認知症に対する理解を深めるための活動をする事について、地域住民の一部の人達から反対もあったが、活動を継続して行ってきたことで、地域への認知も浸透し、行政機関からも信頼されるようになってきた。

### ②運営時に直面した問題点と対処状況

- ・問題点「個人情報の取り扱い」。
- ・個人情報の取り扱いについては、かつては小学校から運動会への招待状の手紙を、高齢者へ直接宛てて送付することができたが、現在は市から名簿を借りられないため出来なくなった。
- ・また、当団体の活動に際して、マスコミの取材・撮影や視察・見学が多くなっているが、参加者の交流が制限されるため、問題に感じており、対応策としては、個人情報の保護のため、その都度事前に参加者からの了承を得るようにしている。

## (5)取り組む上で先進的な点・工夫している点

- ・地域密着型のサービスを提供しているため、自治会・町内会の活動に協力するなど、地域との交流を欠かさず、お互いに助け合っているようなネットワークづくりを行っている。

## (6)今後の活動に向けて

- ・当団体のメインの活動は介護事業であり、地域支え合い活動(認知症関連の創作劇や講座)は年に12回程度とやや少なくなっている。今後は、回数自体は少ない中でもより充実した取り組みにしていきたい。

## (7)災害・緊急時における要援護者支援の状況

- ・災害・緊急時における地域支え合い活動については、マニュアルを策定しており、マニュアル委員を設置するなどの既に取り組みを行っている。マニュアルを策定する際には、市ともやりとりを行い内容に反映するようにした。
- ・また、震災後に整備したものであるとして、災害などが発生した場合には、当団体の建物に問題がなければ、建物を開放し利用してもらおうとするほか、防災訓練の際には、当団体として積極的に参加するようにしている。

### 3. 富来田ふれあいの会

#### (1) 団体の概要

■ 団体区分			■ 団体名
1 NPO法人	③ 任意団体	5 地区社協	富来田ふれあいの会
2 自治会・町内会	4 社会福祉法人	6 その他	
① 団体の設立目的			
公民館主催事業であった「富来田市民セミナー」の受講者などが中心となり、地域の人々が安心して暮らせる環境づくりと会員相互が自己の向上を図ることを目的としている。			
② 活動開始時期	③ 活動エリア	④ スタッフ数	⑤ 運用実績(利用者数)
2001年4月	木更津市 富来田地区	33人	「お達者サロン」: 約250 ※年間延べ

#### [主な活動内容]

- ・独居高齢者のための集いの場としての「富来田お達者サロン」の開催
  - 保健師を招いての健康相談(参加者を対象に個別に実施)、軽い運動、ゲームなどを行うほか、ボランティアスタッフの手料理による昼食会などの交流の場を提供。
  - 富来田地区の独居高齢者、高齢者のみ世帯の方が対象。
  - ※団体のメンバーに民生委員が含まれていることから独居高齢者や高齢者のみ世帯の状況については概ね把握。
- ・会員の活動に関する知識・技術の向上を図るための学習会の実施
  - ボランティアスタッフ(会員)の知識・技術の向上を目的に、食品会社や消防署、介護施設などの見学会。
  - ※見学会は木更津市内だけでなく、横浜市などに県外にも出かけて実施。
- ・その他(…敬老のつどい支援、文化祭への参加、小学校の福祉体験サロンなど)
  - 敬老の集い支援」福祉施設におけるイベントなどの支援を実施。
  - 小学校の福祉体験サロン: 高齢者と小学生の交流の場を設け、ゲームや竹細工づくりなどを通じた交流活動。

#### (2) 活動状況

- ・公民館主催事業である「富来田市民セミナー」において、試験的に高齢者向けのサロンを行ったところ、参加した高齢者の方からは是非継続して行って欲しいとの要望を受け、セミナー受講者が中心となって発足した。
- ・「富来田お達者サロン」は2012年度で11年目を迎えている。
- ・「富来田市民セミナー」: 公民館で生涯学習事業として実施されているもの。
- ・活動の資金については、市の社会福祉協議会から年間5万円の助成を受けているほか、サロン活動では、参加者(高齢者)、会員(ボランティアスタッフ)ともに、1回あたり300円を参加費としてもらっている。
- ・上記のほか、会員からの年間費(2,000円)による収入がある。

#### (3) 他の団体等との連携と情報発信について

##### ① 他の団体等との連携関係

- ・活動において連携している団体としては、市の社会福祉協議会、地区社協、民生委員、行政(市)、地域包括支援センターなど。
- ・会員の殆どが社会福祉協議会、地区社協の関係者であるため、そちらとの関係が特に深くなっている。
- ・行政(市)からは、「お達者サロン」で講演をする保健師を派遣してもらっているなど、行政との関係も比較的強い。
- ・社会福祉協議会、地区社協との連携では、情報交換のほか、小学校等の交流や消防署への講演のお願いなどの橋渡しとして機能している。
- ※保健師の派遣については、今後、地域包括支援センターに移行される予定。
- ※小学校との交流については、当初は社会福祉協議会で行っていたが、学校数が増えたことなどから依頼された。当初は2校であったが、現在は4校にまで増えている。

## ②情報発信の状況

- ・情報発信としては、「ふた公民館だより」への「お達者サロン」開催の案内の掲載などをおこなっているほか、会員（ボランティアスタッフ）による知人等への声かけ、利用者の口コミなどがあげられる。

### <お達者サロン会場>



### <ふた公民館だより>

**富来田公民館だより** 8月・9月のご案内

お達者サロンのご案内

お達者サロンのご案内

お達者サロンのご案内

**ふた公民館だより**

第11回 富来田納涼大会

富来田納涼大会

富来田納涼大会

## (4)活動における問題点と対処状況

### ①立ち上げ時に直面した問題点と対処状況

- ・社会福祉協議会、地区社協、民生委員と一体になって立ち上げた団体であったため、問題は発生しなかった。
- ・ただ、社会福祉協議会や地区社協の協力がなかった場合、資金や会員（ボランティアスタッフ）の確保などの様々な面で問題が生じ活動を継続できなかったのではないか。

### ②運営時に直面した問題点と対処状況

- ・運営時の問題点として、「スタッフの確保」があげられている。
- ・現在の会員（ボランティアスタッフ）は、3分の2が女性で、年齢は50-80代までの構成。
- ・現時点では、会員の協力が得られており、人的な問題は感じていないが、今後も継続的に活動していくためには、世代交代などの必要性も見込まれ、若年層の確保が課題になってくる。
- ・会員になるためには、特に資格（介護士など）は必要なく、善意の気持ちと活動目的への理解さえあればなれるが、50-60代の層は、定年前の人が多く、なかなか新たな会員として加入してもらえない。

## (5)取り組む上で先進的な点・工夫している点

- ・富来田地区の公民館を活動の拠点としているが、富来田地区が広範囲であることから、高齢者がサロンなどに自力で来れないといったケースが発生している。
- ・そうした高齢者への対処方法として、会員（ボランティアスタッフ）が高齢者の送迎を行うようにしている。
- ・会員の活動への参加は、会員は当団体の活動だけでなく、他の仕事などもあるため、当団体での活動に支障なく参加できるよう、事前に年間スケジュールを作成し、それに基づき、「お達者サロン」「総会」「例会」などを行っている。
- ・予め年間でのスケジュールを決めて会員に伝達しておくことで、会員が日程調整をしやすく、サロンなどの活動時に会員が足りないなどの事態が発生しないようにしている。
- ・会員は、活動についてモチベーションを高く持って参加している。理由としては、古くから慣れ親しんだ地域に対する愛着が強く、自分の生まれ育った地域をより良くしたいという熱い思いが活動を継続させる原動力となっている。

## (6)今後の活動に向けて

- ・現在行っている活動（「お達者サロン」「学習会」「敬老の集い支援」など）を充実させることに注力したい。
- ・地域支え合い活動を充実させていくためにも、より多くの独居高齢者の方に「お達者サロン」等に参加してもらうためにも、将来的には地区内にあと2カ所ぐらい活動できる場所を確保できるようにしたい。

(お問い合わせ先: 0438-53-2781)

## 4. 常盤平団地自治会

### (1) 団体の概要

■ 団体区分			■ 団体名
1 NPO法人	3 任意団体	5 地区社協	常盤平団地自治会
②自治会・町内会	4 社会福祉法人	6 その他	
① 団体の設立目的			
1960年、日本の大規模団地の始まりとして建設。1962年以来、市との協同で住民意識を高め、住民同士で支え合うため自治会を運営。			
② 活動開始時期	③ 活動エリア	④ スタッフ数	⑤ 運用実績(利用者数)
1962年	松戸市 常盤平団地	総数 5,260戸	-

### [主な活動内容]

- ・孤独死ゼロ作戦  
→2002年に自治会主導で始めた取り組み。きっかけは2001年春に1人暮らしの男性が死後3年経って白骨化して見つかり、翌年も死後4ヵ月経った男性が見つかったこと。「最近顔を見ない」「郵便物が溜まっている」など異変を知らせる緊急通報体制「孤独死110番」を整備したほか、2004年には孤独死予防センターを開設。
- ・いきいきサロン  
→「孤独死ゼロ作戦」の一環として2007年4月に開設。人々のふれあい、仲間づくり、気軽に集う憩いの場となることを目的としている。原則年中無休で、年末年始の5日間だけが休み。サロンの営業時間は、午前11時から午後5時までで、入室料は100円で、コーヒー、お茶などは無料となっている。サロンには常時1名のスタッフと2名の世話人。スタッフの手当は1時間200円となっている。
- ・地域の活性化、地域福祉の推進を目的とした啓発出版事業
- ・いきいき福祉塾の展開  
→集会所を利用して、健康教室、介護教室、話し方教室などを開き、人と人の絆を広め、生きがい感を高め合う。
- ・よろず相談、研究事業  
→安否確認から納骨に至るまで幅広い分野の総合相談事業を展開。また各分野の研修、研究活動。
- ・その他：地域コミュニティに入れない人のために、民生委員が中心となり、見守り、声かけ、家庭訪問活動。  
夕方、電気の点灯状況を外から確認し、暗い場合は電話や訪問によって確認を行っている。
- ・上記のほか、講師派遣事業、シンポジウム、講演会等の企画立案も実施している。

### (2) 活動状況

- ・自治会が設立された際の基本理念が、「人々の支え合い・住民による街づくり・街の文化を高める」ということであったため、地域支え活動に取り組んだのは自然な流れであった。
- ・現在は「健康長寿」をスローガンに掲げており、街も人も健康でありたい、受け身ではなく、自分達でそれを行っていくことを住民の共感を得ながら、徹底して取り組みたい。
- ・2011年度は、「啓発出版事業」「いきいき福祉塾」「よろず相談研究事業」の3つを地域支え合い活動として立ち上げ、1年だけの事業とせず、継続事業として発展させていきたい。
- ・啓発出版事業  
→50年の経験を有する常盤平団地自治会の地域活動と団地地区社会福祉協議会、まつど孤独死予防センターの事業の経験と教訓をまとめて、今後の地域振興と福祉でまちづくりに生かしていく。  
※タイトル:「思いやりはあいさつから」(仮称)  
※主な内容:福祉で団地まちづくり、地域特性を生かす地域づくり、高齢化社会をいきいきライフ、解説「孤独死ゼロ作戦」、「地域は支え合うが基本」など。

### (3) 他の団体等との連携と情報発信について

#### ① 他の団体等との連携関係

- ・「NPO法人」「社会福祉法人」「地区社協」と連携。特に地区社協としては、1996年に「常盤平団地地区社会福祉協議会」が結成され、当団体とは連携して活動を行っている。
- ・NPO法人としては、2010年に「NPO法人 孤独死ゼロ研究会」が設立され、理事長は当団体の自治会長の方が就任しており、当団体で行ってきた孤独死防止活動の経験を生かし、実践的な孤独死の研究を進めているほか、これまで自治会や団地社協で対応できなかった分野について、取り組んでいく。



## ②情報発信の状況

- ・「新聞記事・広告」のほか、「広報誌」「シンポジウム」が主な発信手段。
- ・新聞記事では、「孤独死ゼロ作戦」を開始後、しばしば取り上げられている。
- ・広報誌「ときわだいら」を過去48年間に毎月発行している。常盤平団地の各戸に配することで、地域の催しや情報の周知に役立っている。会報を出す前に発生したニュースについては、『速報』として各階段下の掲示板に掲示したり、チラシの配布や、地区社協の広報誌「福祉ネットワーク」に当団体の活動内容を掲載してもらっている。

### <サロンの案内>



### <広報誌:「ときわだい」>



## (4)活動における問題点と対処状況

### ①立ち上げ時に直面した問題点と対処状況

- ・問題点「ネットワークづくり」「高齢者等の理解」
- ・孤独死ゼロ作戦、開始当初は、警察や民生委員、都市再生機構(旧:都市基盤整備公団)などの協力で「孤独死110番」を整備した。継続して多様な支え合い活動を行っており、ネットワークづくりも出来てきている。

### ②運営時に直面した問題点と対処状況

- ・問題点「資金不足」「ネットワークづくり」
- ・「いきいき福祉塾」の企画の1つで「音楽の集い」を行ったが、好評であり、現在は「トキサイ」というグループが独立して運営している。「トキサイ」は当団体の自治会から離れて別の団体として活動しているが、世話役は全て無償となっている。資金面で助成したが、当団体にも余力がないため、資金面で今少し余力を蓄えることが出来ればと感じている。
- ・「いきいき福祉塾」では屋外サロンも企画しているが、会場設営費が必要であるため、市にお願いをしている。

## (5)取り組む上で先進的な点・工夫している点

- ・孤独死ゼロ作戦は、活動開始から10年を迎え、その間に「孤独死110番」「安心登録カード」「いきいきサロンの設置」など活動範囲が広がるなど、着実に成果を上げてきた。
- ・2010年には、地域の個性豊かな発想を生かし、魅力あふれる地域づくりのあった団体として、地域づくり総務大臣表彰を受賞した。

## (6)今後の活動に向けて

- ・長年に渡り継続的に活動していることなどもあり、地域住民には十分に認知されている。
- ・当団体はオール賃貸ということもあり、1年間に1割程度の人の出入りがあり、住民で自治会への未加入者が約2割あり、会費も納められていない。
- ・そうした状況下で、活動を活性化していくためには、広報紙などで情報発信を行い、イベントや祭りなどに誘い込むことで、理解、参加を促していくなどをしていくしかない。絆が重要であり、住民のまとまりをもっと高めていく必要がある。

## (7)災害・緊急時における要援護者支援の状況

- ・防災に向け、自治会として司令部となる常盤平団地防災本部を立ち上げた。
- ・専従スタッフは5人で、常時3人がいるようにしている。防災本部の裏手には、団地指定の避難場所となっており、防災用具を備えた倉庫(施設名:防災連携倉庫)を設置した。
- ・防災設備は、倉庫や用具、リヤカーは都市再生機構から提供、一部は松戸市から援助してもらった。

(お問い合わせ先:047-388-9367)

## 5. 茂原市社会福祉協議会

### (1) 団体の概要

■ 団体区分			■ 団体名
1 NPO法人	3 任意団体	5 地区社協	茂原市社会福祉協議会
2 自治会・町内会	④ 社会福祉法人	6 その他	
① 団体の設立目的			
社会福祉事業、その他の社会福祉を目的とする事業の健全な発達、及び社会福祉に関する活動の活性化による地域福祉の推進を図ることを目的とする。			
② 活動開始時期	③ 活動エリア	④ スタッフ数	⑤ 運用実績(利用者数)
1971年12月	茂原市	107人	2600人 ※サロン活動の累計利用者数

### 〔主な活動内容〕

- ・福祉の土壌づくり: 社協会員の募集、「社福もばら」の発行、ホームページの運営、社会福祉大会の開催、福祉こどもまつりの開催など
- ・市民の福祉活動への参加促進  
「ボランティアセンターの運営」: ボランティア相談・登録・紹介、ボランティアの養成・活動支援、ボランティア保険など  
「地域福祉活動」: 地区社協事業(ふれあい・いきいきサロン)、地域交流事業
- ・地域住民の生活支援  
「在宅福祉サービス事業」: 見守りネットワーク事業(食事サービス)、訪問理髪サービス事業、紙おむつ支給事業など  
「広域後見支援センター」: 福祉サービス利用援助事業  
「相談事業」: 心配ごと相談、無料法律相談
- ・子育て支援 「子育て支援事業」: 児童センター事業、学童保育事業

### (2) 活動状況

- ・見守り活動  
→ 友愛訪問として、一人暮らし、あるいは寝たきりの高齢者や障害のある方のお宅を訪問、安否確認など見守り。
- ・サロン活動  
→ 地区社協の主導により、各地区で月1回(年間で10回)程度、高齢者を対象にサロン活動を実施。  
福祉センターや公民館、自治会館などで、学習講座やレクリエーションなどを行っている。  
利用料金は無償のケースと、弁当代等を徴収する有償のケースがある。
- ・インフォーマルサービスの提供  
→ 寝たきりの高齢者や障害者に対して、在宅福祉サービス(食事サービスや理髪サービスなど)を行っている。  
独り暮らしの高齢者を対象に、ボランティアスタッフが弁当を届けている。  
利用者から利用料金100円をもらっている。
- ・研修等の人材育成  
→ 年間を通じて、子どもから大人まで幅広く、ボランティア育成を目的とした講座を実施。
- ・地域支え合い活動は、社会福祉協議会としての使命でもあり、在宅福祉サービス分野の拡大・深耕は、市民からの要請もあつたことなどから取り組むようになった。
- ・当団体は、行政機関や公的団体など、他の団体の繋がりは多岐にわたるため、地域支え合い活動の内容に応じて、視察や情報などの面で参考にさせてもらった。
- ・活動の立ち上げ時には、当団体のマンパワー・財源だけでは賅いきれない部分があつたため、ボランティアを組織した。
- ・財源については、会費や市から補助金、寄付金を活用しており、これまでの事業については比較的安定して確保できているが、今後、新しい取り組みを行う際には、どのように資金を確保していくかが課題となっている。

### (3) 他の団体等との連携と情報発信について

#### ① 他の団体等との連携関係の状況

- ・「自治会・町内会」「NPO法人」「社会福祉法人」「任意団体」「自治体」と連携
- ・連携関係が最も強いのは、地区社協で、サロン活動など、地区単位で実施して欲しい内容に取り組んでもらっている。

#### ② 情報発信の状況

- 「団体のHP」「新聞広告」「回覧板」「県・市町村の広報誌」「セミナー等での告知」などで情報発信している。

## <当団体のパンフレット、チラシ>



## <当団体の広報誌>



## (4)活動における問題点と対処状況

### ①立ち上げ時に直面した問題点と対処状況

- ・問題点「資金不足」「ノウハウ」「地域住民の認知や理解」
- ・資金不足については、新たな取り組みを実施する際には、財源が限定されるため、規模の縮小や内容の一部を取りやめる、別途財源の確保を検討するなどして対応をした。
- ・ノウハウについては、新たな取り組みを手掛ける場合にはノウハウが足りず、細かい部分については内部で協議するほか、連携関係にある団体に問い合わせる情報を得るなどの対応をした。
- ・住民の認知や理解については、介護に関係のない世代は、当団体の広報活動が認知されていない現状。そのため、ポスターやインターネットのHPなどを通じて継続的に情報発信をしているが、あまり効果が出ていない。

### ②運営時に直面した問題点と対処状況

- ・問題点「資金不足」「高齢者等の理解」「地域住民の認知や理解」
- ・資金不足については、当団体の財政状況が厳しいこともあり、活動中の食事などを一部利用者負担にしたり、事業規模を縮小したりすることで対応してきたが、根本的な解決には至っていない。
- ・高齢者等の理解については、サロン活動において、参加して欲しい層と実際に参加する層でミスマッチが生じている。
- ・参加して欲しい層としては、交流の少ない独居高齢者の方などであるが、参加者が特定の人に決まっているため、別の層を呼び込むため、広報内容を検討し継続的な告知を行うなどの対応をしている。
- ・地域住民の認知や理解については、ボランティアにおいて新しい人が確保できず、固定化し高齢化している。こちらについては、地域住民の意識改善に向けた啓発が必要だが、なかなか進展していかないのが現状となっている。

## (5)取り組む上で先進的な点・工夫している点

- ・見守り活動について(高齢者に弁当を届ける)は、ボランティアスタッフが自分の家で採れた野菜を提供するなど、コストを下げることに協力してもらっている。
- ・また、地域内で、自治会による買い物支援など、住民参加型の活動が始まっており、当団体では、情報提供などを通じて、そうした活動を側面から支援している。

## (6)今後の活動に向けて

- ・地域支え合い活動を進めていく上で、資金面での問題に直面するため、有償の在宅福祉サービスに取り組みたいと考えているが、なかなか進展していない。

## (7)災害・緊急時における要援護者支援の状況

- ・災害・緊急時に向けたマニュアルは策定していないが、現在、市の防災計画が見直し中であるため、それがまとまった段階で、当団体も市の防災計画と連動する形で、今後マニュアルを策定していきたい。

## 6. 流山ユー・アイネット

### (1) 団体の概要

■ 団体区分			■ 団体名
1 NPO法人	3 任意団体	5 地区社協	流山ユー・アイネット
2 自治会・町内会	④ 社会福祉法人	6 その他	
① 団体の設立目的			
「誰もが安心して暮らしてゆけるふれあい社会」の実現を目的として、高齢者、障害者に対する福祉活動に取り組んでいる。			
② 活動開始時期	③ 活動エリア	④ スタッフ数	⑤ 運用実績(利用者数)
1995年6月	流山市及び周辺市町村 (柏市、野田市、松戸市)	800人	3000人 ※サロン活動

### [ 主な活動内容 ]

- ・助け合い“ふれあい”活動  
訪問サービス、外出支援、市民のお茶の間 茶話(さわ)やか広間(居場所)
- ・介護保険活動  
居宅介護支援(ケアプランの作成)、訪問介護、福祉用具貸与、グループホーム、デイサービス
- ・行政からの受託活動  
高齢者ホームヘルプサービス、高齢者外出支援、障害者自立支援、ファミリー・サポート・センターの運営(子育て支援)

### (2) 活動状況の提供

- ・見守り活動  
→会員を対象に、話し相手や病院への付き添いを行っている。  
当団体の友愛会員になると利用でき、利用料は800円/1時間となっている。
- ・サロン活動  
→会員でなくても参加できる。市内の江戸川台駅近くで消防車を収納していた場所があり、そこを無償で借り受け、月曜から金曜までお茶を飲んだりするサロンとして活用。1日あたりの利用者は12~13人程度で、利用料金として100円をもらっている。
- ・インフォーマルサービスの提供  
→介護保険サービス以外の事柄について、例えば庭掃除などの手伝いを行っている。利用料金は800円/1時間。  
会員については、入会金1,000円、年会費3,000円が必要となるほか、各サービスについて時間あたりでの料金をもらっており、その資金で運営を行っている。
- ・地域支え合い活動を始めたのは、かつて現在の代表者を中心として、常磐道が流山を通る計画があった際に、地域と行政の間に入り調整等の役割を果たした。その活動自体は終了したが、引き続き地域の役に立ちたいとの思いから、こうした活動に取り組むこととなった。
- ・運営上の資金については、利用者から利用料をもらっているほか、介護保険事業にも取り組んでいることなどから、比較的安定している。

### (3) 他の団体等との連携と情報発信について

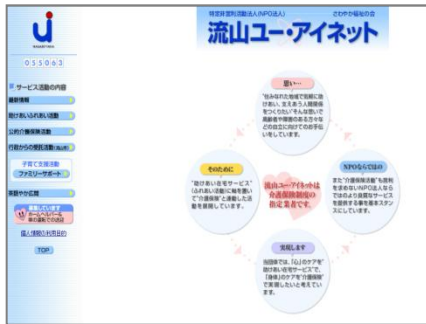
#### ① 他の団体等との連携関係の状況

- ・連携関係にある団体は、「NPO法人」「社会福祉法人」「地区社協」。
- ・特にNPO法人との連携関係が強く、情報交換だけでなく、スタッフの交流なども行っている。

#### ② 情報発信の状況

- ・情報発信は、「団体のHP」「団体の機関紙」で行っている。

## <当団体のHP>



## <当団体のパンフレット>



## (4)活動における問題点と対処状況

### ①立ち上げ時に直面した問題点と対処状況

- ・問題点「資金不足」「スタッフの確保」「ノウハウ」
- ・資金不足については、立ち上げ時のメンバーが無給で活動し、個人で資金を持ち出すことで対応した。
- ・スタッフの確保については、当団体での活動の前に、常磐道が流山を通る計画に関して、地域と行政との調整活動を行っており、そのメンバーがそのままスタッフとなることで対応した。
- ・ノウハウについては、当団体と連携関係にある、公益財団法人さわやか福祉財団から指導を受けて対応した。

### ②運営時に直面した問題点と対処状況

- ・問題点「資金不足」「スタッフの確保」「有資格者の確保」
- ・資金不足については、会費や利用者から利用料をもらっているほか、地域支え合い活動より後で行った介護保険事業関係で資金を賅うことで対応した。
- ・スタッフの確保については、広告等の媒体を使わず、友人・知人等による口コミで募集し確保するようにしているが、60歳前後の定年者層をうまく取り込めていないのが現状となっている。
- ・1日のうち、1～2時間手伝ってもらう形態では、なかなか継続しにくいようだ。
- ・有資格者の確保については、助け合い活動を中心に高齢者の利用者が多いため、有資格者でないと対応できないことがある。友人・知人等を通じて口コミで確保するようにしている。

## (5)取り組む上で先進的な点・工夫している点

- ・地域の人達の助けになり、喜んでもらえるように心がけている。庭の手入れ、家の補修、電球交換、掃除・洗濯など、業者に依頼すると高額になるため、出来るだけ金銭面での負担感が生じないよう、低料金での助け合いを行うようにしている。

## (6)今後の活動に向けて

- ・当団体の会員になった人達は、入院などの特別な事情がない限り退会されることはないため、そうした状況が利用者の満足度の高さを反映していると思われ、今後も、地域住民の人達に満足してもらえるよう取り組んでいきたい。

## 7. C&Cクラブ

### (1) 団体の概要

■ 団体区分			■ 団体名
① NPO法人	3 任意団体	5 地区社協	C&Cクラブ
2 自治会・町内会	4 社会福祉法人	6 その他	
① 団体の設立目的			
豊かな社会づくり、つまり人間一人ひとりが持っている潜在能力を最大限に発揮出来る社会の実現を目指している。			
② 活動開始時期	③ 活動エリア	④ スタッフ数	⑤ 運用実績(利用者数)
2001年1月	流山市	20人	20人 ※友達ねっと:加入者数

### 【主な活動内容】

- ・**企業の要素**: 介護保険制度を活用した介護事業の他、流山市委託事業である高齢者生活支援事業と高齢者外出支援事業を行っている。またこれらの事業以外の独自の生活支援事業も行っている。  
少子高齢化対策の一環として、某プロバイダーの結婚支援サービス鳩ぽっぽの一部運営を任せられ、法人としての自立を図っている。
- ・**ボランティアの要素**: 公民館を活用したカルチャー事業を行っており、市民一人ひとりの興味や能力を引き出すことにより中高年者の介護予防を図るなどの取り組みを行っている。  
現在のカルチャーメニューは介護予防としての健康体操・気功太極拳・書道教室など15種類。
- ・**扶助的要素**: 誰でも出来そうな30分以内の簡単なことで、仕事としては成立しにくいものや親しい間柄のため何となく仕事にしたいもの等を友達同士で助け合う事業について、これらを友達ネットと称して取り組んでいる。  
本事業にて集った資金は「友達ネット」として発展途上国の子供達の教育資金に役立てている。

### (2) 活動状況

- ・**サロン活動**  
→ 自宅を開放して、「気晴らし喫茶室」を運営している。参加費は3ヵ月あたり1,000円で、利用者は1日に10人程度。  
当初は1週間に1回ほど開放していたが、現在はほぼ毎日開放している。
- ・**見守り活動**  
→ 訪問介護事業の一環として行っている。  
※上記の2つは、流山市からの依頼による「ふれあいの家支援事業」「見守り活動」となっている。
- ・**友達ネット**  
→ 友達ネットは、生活をしていく中で、仕事としては頼みにくいことを友達同士で助け合い、お互いにボランティア意識を大切にしながら、生活の質(QOL: Quality of life)向上を図っていく地域支え合いシステムとなっている。  
有償ボランティアが課税されるという裁判結果が出ており、税金がかからない仕組みを研究して作った仕組みが「友達ネット」。  
当団体の代表者がSNSやプロバイダー事業を行っていることもあり、形にすることができ、現在20人程度は「友達ネット」に加入している。  
「友達ネット」については、2011年度の「地域支え合い体制づくり事業補助金」を活用している。  
「友達ネット」を構築する上で参考にしたものは、流山市内のNPO法人流山ユー・アイネットの「助けあいふれあい活動」が参考になった。

### (3)他の団体等との連携と情報発信について

#### ①他の団体等との連携関係性

- ・「自治体」と連携している。
- ・流山市からは地域支え合い活動の一部を依頼されるなど、関係が強くなっている。

#### ②情報発信の状況

- ・情報発信の手段としては、「団体のHP」「県・市町村の広報誌」である。

#### <当団体のHP>



#### <「友達ネット」のサイト>



### (4)活動における問題点と対処状況

#### ①立ち上げ時に直面した問題点と対処状況

- ・問題点「地域住民の認知や理解」「手続きの煩雑さ」。
- ・地域住民の認知や理解については、「友達ネット」の仕組みを理解してもらうのに、説明などの時間がかかる点が問題。
- ・「友達ネット」の形態としては、自治会型の完全固定(出入り不自由のコミュニティ)と、SNSのように出入り自由のコミュニティの2形態があると考え、後者(出入り自由のコミュニティ)を指向しているが、理解してもらうのが難しい。

#### ②運営時に直面した問題点と対処状況

- ・問題点「スタッフの確保」「地域住民の認知や理解」。
- ・スタッフの確保については、現時点では頭数は揃っているが、志を持った後継者となるような人がおらず、育たない点が問題となっている。特に対応策はないが、支援者の中から育てていこうにしたい。

### (5)取り組む上で先進的な点・工夫している点

- ・地域支え合い活動を効率的に行えるようにするため、ネット関係の技術等を活用していることや、「気晴らし喫茶室」として開放した部屋について、自宅兼事務所だったものを自宅はマンションに引っ越すことで、より利用しやすい環境にしたい。

### (6)今後の活動に向けて

- ・当団体で目指そうとしていることを周辺に理解してもらうためには、今取り組んでいることを続けていくしかないと考えており、今後は志のある人が増えていって欲しい。

## 8. 鴨川市社会福祉協議会

### (1) 団体の概要

■ 団体区分			■ 団体名
1 NPO法人	3 任意団体	5 地区社協	鴨川市社会福祉協議会
2 自治会・町内会	④ 社会福祉法人	6 その他	
① 団体の設立目的			
行政や関係機関との連携だけでなく、幅広い団体・個人と協働しながら、住民主体の地域福祉活動の輪を広げ、子供から高齢者まで、また障害のある人もない人も、誰もが安心して自分らしく生きるために支えあえる、しあわせを実感できるまちづくりを目指し事業を推進している。			
② 活動開始時期	③ 活動エリア	④ スタッフ数	⑤ 運用実績(利用者数)
2005年5月	鴨川市全域	-	-

### [ 主な活動内容 ]

- ・福祉教育推進活動：児童・生徒の人を思いやる心と豊かな人間性を養うため、学校・家庭・地域社会と連携しながら福祉出前学習会、福祉教育連絡会活動、ボランティアワークキャンプ、鴨川方式ホームヘルパー養成学習会等を実施。
- ・福祉用具貸付事業：介護保険認定において非該当と認定された方、障害のある方、(障害者自立支援法等に基づいてサービスの対象者除く)短期に使いたい方に車いすや電動ベッドなどを貸与。
- ・地域福祉権利擁護事業(日常生活自立支援事業)
  - ：判断能力が十分でない方々のために地域で安心した生活が送れるよう様々な福祉サービスの情報を提供したり利用手続きの援助や代行、金銭管理、財産保全サービスに関する相談窓口を開設。また、県社協より委託で、平成20年度より安房地域全体のこの事業の推進機関としての広域センター「かもがわ広域後見支援センター」を運営。
- ・地区社協いきいきサロンの開設
- ・高齢者安否確認事業の充実・実施
  - ：社協の訪問員による、65歳以上のお独りで、市内に住んでいる方々に月に1回、安否確認のため訪問を実施。

### (2) 活動状況

- ・要援護者地域支え合いマップ整備事業
  - 一人暮らしの高齢者や障害のある人が、どこにどのくらいいるかを、地図上にプロットしたものを作成。
- ・サロン活動の拠点づくり事業
  - 鴨川市には現在、13地区社協があるが、そのうちの4社協である天津地区・小湊地区・大山地区・関地区での、見守り体制のための拠点となるサロンの整備。
- ・買物応援などの生活支援サービス
  - 地区フォーラムに行くとき必ず出る問題がこれなので、生協と組んで対応していく。
- ・生活支援拠点づくり
  - 鴨川市の中でも最も不便な「主基(すき)地区」に生活支援の拠点となる5つのサロンを整備する。青年館・公会堂・お堂などに冷暖房・電気・水道を整備し、地域の人が定期的に活動できるようにする。
- ・震災被災者支援
  - 東北から避難している人は多いが横のつながりができていないのでサロンを開いて仲間づくりを支援していく。

### (3) 他の団体等との連携と情報発信について

#### ① 他の団体等との連携関係

- ・「自治会・町内会」「地区社協」「自治体」と情報交換のほか、地区のフォーラムを共同で開催している。

#### ② 情報発信の状況

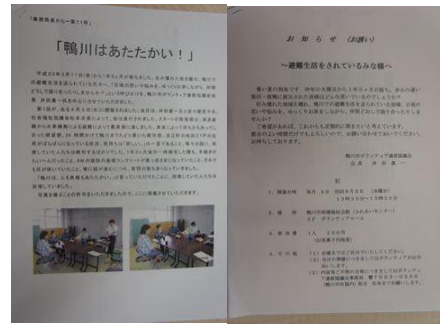
- ・「団体のHP」「セミナー等での告知」「広報誌」が主なもの。社協の広報紙は、年に3回発行している。
- ※被災者支援の対象者については、ケアマネージャーの方に頼んだり、学校でチラシを配布するなどしている。



## <当団体のHP>



## <左:広報誌、右:被災者向けチラシ>



## (4)活動における問題点と対処状況

### ①立ち上げ時に直面した問題点と対処状況

- ・問題点「資金不足」「有資格者の確保」「個人情報の取り扱い」
- ・サロンづくりは地域で取り組むことになったもののため、地域の人達が中心になって取り組んだ。ただ、資金面については、余裕がなかったため、補助金を活用し、細々としたものではなく、きちんとした整備ができた。
- ・有資格者の確保では、活動の担い手はほとんどがボランティアであったため、どうやって人材を見つけ、育成していくかが課題となっている。現状はこれまでの経験者に託している。
- ・個人情報については、マップ整備事業で、最も大きな問題となった。個人情報の問題で行政と意見がわかれ、共同で実施するはずだったが、うまく進まなかった。

### ②運営時に直面した問題点と対処状況

- ・問題点「資金不足」「有資格者の確保」「地域住民の認知や理解」。
- ・資金不足と地域住民の認知や理解については、運営当初はいろいろ問題があったが、現在は浸透してきており、ある地域でサロンづくりが進展しているのを見て「うちの地域でもやりたい」という声が寄せられることもある。
- ・ただ、こうした場合、既にサロンがあるところには補助金がもらえなくなっている。サロンの各拠点を充実させていくためにも、既に事業が始まっている拠点にも補助金が使えようになっ欲しい。
- ・個人情報については、運営面でも大きな問題となっている。人と人とが繋がらないと活動できないのに、どの事業をやるにしても必ず個人情報の壁にあたってしまう。そのため、マップづくりについては、スピードが必要とされているにも関わらず、徐々に更新作業を進める形となっている。
- ・また、マップづくりについて、システムを作成するという面では補助金を活用できたが、今後継続していくためには、緻密なシステムを運用するプロが必要であり、そのための人件費が賄えない状況となっている。

## (5)取り組む上で先進的な点・工夫している点

- ・東日本大震災によって、鴨川市で避難生活を送っている人を対象に、「日頃の思いや悩みを、ゆっくりお茶しながら、仲間どうして語り合ったりしませんか？」との呼びかけでサロンを実施するなど、高齢者だけでなく、被災者の方に向けた支援も行っている。

## (6)今後の活動に向けて

- ・現在、当市では地域のコミュニティが崩壊しつつあり、独居老人が増えてきている。高齢化率が40%を超えている地区もあり、コミュニティとして成立し得なくなっている地区も散見されてきている。高齢者を中心とした交流の場としての拠点を設けていかなければ、地域の要望を把握することができない状況になっている。
- ・高齢者や要援護者に向けた支援に関する情報を吸い上げていくための活動拠点づくり喫緊の課題であると考えており、拠点づくりを通じて地域住民が交流し、地域で支え合えるようになっていきたい。

## 9. 富津市社会福祉協議会

### (1) 団体の概要

■ 団体区分			■ 団体名
1 NPO法人	3 任意団体	5 地区社協	富津市社会福祉協議会
2 自治会・町内会	④ 社会福祉法人	6 その他	
① 団体の設立目的			
地域福祉の増進を目的とし、地域のなかの問題をみんなで考え、話し合い、行政や関係機関・専門機関などの協力を得ながら、地域住民が安心して心豊かに暮らせることを目指して、事業を推進している。			
② 活動開始時期	③ 活動エリア	④ スタッフ数	⑤ 運用実績(利用者数)
1975年5月	富津市	12人 ※職員、非常勤・臨時のみ	見守り活動:1000人 サロン活動:840人 ※昨年度利用者

### 〔主な活動内容〕

- ・ミニデイサービス
- ・子育て支援事業  
「おやこ遊遊ひろば」: 手作りの布絵本やおもちゃが置いてあり、子どもが自由に、お母さんも一緒に遊べて、おしゃべりできる親と子の「居場所」。
- ・視覚障害者支援事業  
「ガイドヘルパー事業」: ガイドヘルパー(ボランティア)の協力により、視覚障害者のガイド(外出支援)を実施。  
※富津市社協独自の研修課程を修了した人が活動をしている。
- ・介護保険事業
- ・在宅福祉サービス事業
- ・在宅ケアサービス事業

### (2) 活動状況

- ・見守り活動  
→ 地区社協において「見守りネットワーク」を組織してもらい、地域の高齢者に対して、訪問の実施、窓の開け閉めの有無などの安否確認を実施している。
- ・サロン活動  
→ ミニデイサービス「みちくさの会」を実施。内容は、ボランティアの協力により午前中は入浴や足浴、午後からはレクリエーションを実施。ミニデイサービスは月6回、「天羽老人憩の家」にて実施しており、食事や場所代が発生することもあり、利用料金として1,000円をもらうようにしている。  
※その他、地区社協の単位でふれあいの集いなども行われている。
- ・インフォーマルサービス  
→ 独り暮らしの高齢者で希望する人に対して、ふれあい型配食サービス(ひとり暮らし高齢者給食サービス)に取り組んでいる。実施は社協から地区社協に委託する形で行っており、年4回実施している。  
※サービスの実施を地区社協に委託しているため、社協から地区社協へ助成金を交付している。
- ・研修等の人材育成  
→ 市民やふれあい推進委員を対象に研修を実施しているほか、介護教室の講師派遣なども実施している。  
→ 富津市内の小学校及び中学校を、福祉教育推進校として指定し、児童・生徒を対象に社会福祉への理解と関心を高め、地域連帯の心を育成することを目的として福祉教育を推進。
- ・社協であるため、地域支え合い活動は使命として取り組んでいる。新たに取り組む活動の中で、必要と感じれば、先進事例の施設や研修などを実施して、対応するようにしている。
- ・支え合い活動は、社協の予算から支出するが、協力者(ボランティアスタッフなど)集めは地区社協主導で行っている。
- ・ボランティアは、講座を設け研修や現場の見学をしてもらい、一緒に活動するかどうかを決めてもらうようにしている。

### (3)他の団体等との連携と情報発信について

#### ①他の団体等との連携関係

- ・「自治会・町内会」「NPO法人」「社会福祉法人」「地区社協」「認知団体」「自治体」と連携している。
- ・当団体は、民間組織としての「自主性」と地域の皆さまさまざまな分野の関係者に支えられた「公共性」という2つの側面を持っていることもあり、様々な団体と連携関係にあるが、特に地区社協や自治体(行政機関)、自治会との関係が強いとしている。
- ・連携の内容としては、情報交換だけでなく、講師派遣、スタッフの交流、行事参加など様々である。

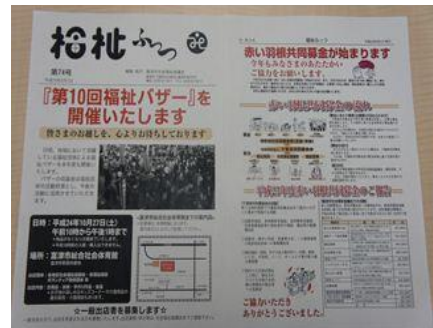
#### ②情報発信の状況

「団体のHP」「回覧板」「県・市町村の広報誌」「団体の広報誌」で情報発信している。

##### <当団体のHP>



##### <当団体の広報誌>



### (4)活動における問題点と対処状況

#### ①立ち上げ時／運営時に直面した問題点と対処状況

※サロン活動について

- ・問題点「資金不足」「スタッフの確保」「場所の確保」。
- ・資金不足について、サロン活動を実施している地区社協では、社協から助成金を交付しているが十分ではない。
- ・また、活動を担っているスタッフの多くは高齢者であり、補助金を利用しようとしても、条件を満たすかどうかの判断、申請書類の作成など、高齢者にはやや荷が重く利用しにくい。
- ・スタッフの確保については、講座などで来てもらった人に、実際に現場を見てもらい活動するかしないかを決めてもらっているが、なかなか確保できない。また、ボランティアスタッフは高齢化しており、若い世代の確保が問題であるが、良い解決策は現時点では見当たらない。
- ・場所の確保については、活動の拠点を選定する場合、参加者の送迎も考慮しなければならず、選定するのが難しく、運用している中でも、遠路やってくる利用者があるため、問題として残っている。

#### (5)取り組む上で先進的な点・工夫している点

- ・地域のニーズを汲み取った活動をこころがけている。また、個々の取り組みについては、必要に応じて先進事例の施設に行ったり、スタッフの研修を実施するなど、内容の充実化に努めている。

#### (6)今後の活動に向けて

- ・当団体の活動目標である福祉の推進を目指して、今後も地域支え合い活動の充実に取り組んでいく。

#### (7)災害・緊急時における要援護者支援の状況

- ・災害・緊急時の対策として、マニュアルは策定しているが、骨組みのようなものはある。ただ、行政機関と足並みを揃えないと機能しないため、行政機関と足並みを揃えて対応していく予定。

## 10. ふれあい大松

### (1) 団体の概要

■ 団体区分			■ 団体名
1 NPO法人	③ 任意団体	5 地区社協	ふれあい大松
2 自治会・町内会	4 社会福祉法人	6 その他	
① 団体の設立目的			
高齢化が進む大松地区を拠点に、将来的に白井市が目指す高齢者の生きがいを促進し、健康的な生活を維持することに協力することを目的としている。			
② 活動開始時期	③ 活動エリア	④ スタッフ数	⑤ 運用実績(利用者数)
2011年7月	白井市大松地区	15人	361人

### [主な活動内容]

- ・サロンを月2回実施(勉強会、ふれあいサロンを各1回ずつ)
  - 勉強会:市と共同で実施。市の職員の方を講師として招き、安全や健康など多様なテーマについて講演。
  - ふれあいサロン:参加者同士でコーヒーを飲みながらのおしゃべりや、高齢者用認知症対応玩具での遊び、お笑い(落語など)を中心としたDVDの鑑賞、認知症予防の為の「脳トレジャンケン」、市特別作成の「梨トレ体操」などを実施。
- ※勉強会では、認知症予防の学習療法士の有資格者による認知症ワンポイント講座を毎回実施している。
- ※ボランティアスタッフは60代が核となっている。平均年齢は65歳位。
- ※ボランティアスタッフは、市民大学卒業生のほか民生委員によって構成されている。

### (2) 活動状況

- ・大松地区の集会場を活用した、勉強会、ふれあいサロンを実施。
- ・ステップ1として、「認知症予防モデル地区の構築」「お年寄りが集まる場の提供」に取り組み、毎回約50人の参加者が集まるなどの成果をあげてきた。
- ・ステップ2として「ふれあいサロン大松の充実化」「独居老人の孤立化防止」「お年寄りのための防災ネットの構築」に取り組んでいる。
- ・さらに、ステップ2を達成した後は、ステップ3として「もっと近く、もっと深く、地域の絆」をスローガンに、自家製炭焼きピザ釜の作成(ミドル:中年層にはピザづくり講習。お年寄りと一緒にピザを食べるなど)を通じて地域全体との交流による絆づくりを目指している。
- ・なお、「ふれあいサロン大松」を「脳トレサロン大松」と改称し、他のサロンと明確に区別した認知症予防のためのサロンとして、これまで参加したことのない方に訴求し、参加を呼び掛けていく予定となっている。
- ※当団体が活動を始めたことで、休眠状態にあった当地域の老人クラブが活動を始めたほか、サロンに参加した高齢者同士で新たな活動グループ(カラオケクラブ、パソコンウォーキングクラブなど)ができるなど地域全体が活性化するといった効果がでている。

### (3) 他の団体等との連携関係と情報発信について

#### ① 他の団体等との連携関係

- ・「自治会・町内会」「NPO」「社会福祉協議会」「自治体(市)」「地域包括センター」と連携関係にあり、特に「自治体(市)」との連携関係が強く、毎月実施している勉強会で、講師として市の職員の方を派遣してもらっている。
- ・ボランティア連絡協議会(NPO法人)に団体として加盟していることから、他のNPOなどの団体とも連携を図れる環境にある。

#### ② 情報発信の状況

- ・インターネットのホームページなどネットを活用した情報発信は行っていないものの、サロンの開催などの呼び掛けは、チラシを作成し、大松地域450世帯の全てにポスティングを行っているほか市の広報誌やスタッフ・利用者による口コミなどによって情報発信しており、大松地区での認知は浸透している。
- ・また、最近では、サロンの参加者が1回あたり約50名と多いことなどから、新聞などで取り上げられ紹介されたこともある。

### <勉強会・サロン:会場>



### <認知症予防講座:脳トレジャンケンの様子>



#### (4)活動における問題点と対処状況

##### ①立ち上げ時に直面した問題点と対処状況

- ・問題点「資金不足」
- ・立ち上げ当初は資金面で苦勞し、勉強会、ふれあいサロンで利用する備品などの購入ができなかった。
- ・しかし、民間の金融機関による助成金を受けることによって、プロジェクターなどの備品を購入することができた。

##### ②運営時に直面した問題点と対処状況

- ・現在のスタッフは、市民大学卒業生、民生委員などで構成されており、自発的に行動しモチベーションを高く持って活動している。年齢層は平均で65歳ぐらいで、一番若い人で50代となっている。
- ・現時点では人手不足などの問題は感じていないが、活動を充実・継続させていくためには、より若い層の参加が課題。
- ・ただ、60歳前後の層では、定年前でもあり働いている人が多いため、活動に参加してもらいにくいのが現状。
- ・運営時の資金については、スタッフによる募金やサロンの参加費(1回あたり:100円)、寄付金などで賅っている。

#### (5)取り組む上で先進的な点・工夫している点

- ・勉強会、ふれあいサロンでは、毎回約50名の参加者があるなど、参加者が多い(通常のサロン活動であれば約20名程度)ことが特徴。また、男性の参加者が多いことも特徴となっている。
- ・理由としては、勉強会、ふれあいサロンともに、高齢者の関心が高い認知症予防というテーマを扱っていることのほか、それらの運営において、脳トレジャンケンや梨トレ体操、ゲーム(認知症予防用のおもちゃ)などを活用し、参加者する高齢者が楽しく学び・過ごせる内容になっていることがあげられる。

#### (6)今後の活動に向けて

- ・活動目標のステップ2で、「ふれあいサロン大松の充実化」「独居老人の孤独死防止」「お年寄りのための防災ネット構築」に取り組んでいるが、「お年寄りのための防災ネットの構築」では、個人情報保護の問題などもあり、独居老人の情報が集めにくいことが問題。
- ・ただ、行政機関からの情報提供を待つなどの待ちの姿勢では取り組みに進展がないため、勉強会、ふれあいサロン参加者から許可を得て名簿にしていくなど、独自で防災ネットを構築し、自治会等を動かしていくことで防災ネットを整備していきたい。
- ・また、ステップ2を達成した後は、ステップ3を予定しているが、明確な活動目標を掲げて活動を推進していくことで、各スタッフが使命感を持って活動に参加することができ、高いモチベーションに繋がっている。

#### (7)災害・緊急時における要援護者支援の状況

- ・独自で防災ネットの構築に向けて取り組んでいる。

# 11. 恵み野会

## (1) 団体の概要

■ 団体区分			■ 団体名
① NPO法人	3 任意団体	5 地区社協	恵み野会
2 自治会・町内会	4 社会福祉法人	6 その他	
① 団体の設立目的			
知的・身体・精神の3障害のある人達の日中の活動の場をつくなど、福祉増進に寄与することを目的としている。			
② 活動開始時期	③ 活動エリア	④ スタッフ数	⑤ 運用実績(利用者数)
2005年5月	富里、成田・八街	42人	施設利用者は20人(在籍者) 他、ボランティア10人程度/日

### 〔主な活動内容〕

- ・恵みの会は在宅介護支援「つくしんぼ」、グループホーム「野の花」、地域生活支援「大地」の3つで構成。
- ・「大地」に利用者が活動する建物、作業場、語らいサロン「ひなた」があり、ボランティアは「ひなた」で活動。
- ・大きな施設に入ったがそこでは対応できなかった人や、一般企業で挫折した15歳以上の人が週に6日、9時から16時まで通って来て、お菓子やジャム・お茶の生産活動を行ったり、遊んだりして訓練を行い、自信を取り戻し、家庭や地域の中で自立していけるよう支援を行っている。自立に向けて求職活動の支援も実施。
- ・活動では、地域に受け入れてもらい地域との交流を持つことを心がけており、その一環として当サロンを利用して、地域の人達が「グランマの会」というボランティア活動を行っている。内容は主に手芸活動で、富里にちなんだ手芸品を作り、サロンや地元のイベントで販売しており、その収益で「恵みの会」を支援してもらっている。
- ・利用者の定員は20人となっており、常に20人が在籍している。サロンに集まるボランティアは毎日6～10数人程度。

### (2) 活動状況

- ・在宅介護支援「つくしんぼ」: 子ども達主体の個々に応じた遊びの中で社会的なルールを学び、生活の向上を目指す。
- ・グループホーム「野の花」: 知的障害の人が一般企業で就業しながら自立した生活を送るための様々な訓練の場、または準備機関として、管理者や世話人の生活全般における支援や助言のもとに生活。
- ・地域生活支援「大地」: 一般企業で受け入れられることが難しいとされる人や、就職した後在宅を余儀なくされた人などが「大地」で活動する中で力をつけ自信を取り戻し、家庭や地域の中で自立していけるように支援。
- ・活動を始めた当初は、障害を持った子どものお母さんたちも「働きたい」「おしゃれをしたい」などと思っているため、そうした人達の手助けをしたいと思い始めた。その活動を続けていると、やがて子どもが成長し、学校を卒業すると、昔は在宅しかなかった。そこで、そうした状態を地域で支援したいと思い現在のよう活動となった。
- ・語らいサロン「ひなた」と作業棟を建設したが、交流場となる建物と作業所を別につくれば利用者の休憩スペースも確保でき、障害の度合いの違う利用者にも落ち着いて過ごしてもらえ、地域の人との交流も円滑にできるようになるのではないかと考えている。  
※サロンはもともとあった建物をリフォームしたもの。  
※当団体の活動では、グループホーム「野の花」や地域生活支援「大地」は有料のサービスとなっている。

### (3) 他の団体等との連携と情報発信について

#### ① 他の団体等との連携関係の状況

- ・連携関係にある団体は、「自治会・町内会」「地区社協」。
- ・「自治会・町内会」は、当団体が地域で愛され、気楽に地域の人に交流してもらいたいという思いから、地域の行事の際には当団体の施設を活用してもらうようにしている。また地域の人達とは、ドブ掃除や草取りを共同で実施したり、自治会でも当団体の子ども達を見守ってもらい、行事に参加させてもらったりしている。
- ・「地区社協」は、当団体でつくったお菓子を、地区社協の富里センターの中の売店で販売させてもらっている。

## ②情報発信の状況

- ・情報発信は、「団体のHP」のほか、「新聞広告」「チラシの配布」を行っている。
- ・また、時折、活動が新聞で取り上げられることもあり、情報発信の一つとなっている。

### <サロン活動の場:「ひなた」>



### <サロン活動に関するパンフレット>



## (4)活動における問題点と対処状況

### ①立ち上げ時に直面した問題点と対処状況

- ・問題点「資金不足」。
- ・慢性的に資金が不足している。以前は代表者が別途仕事を持っていたこともあり、そこからの給料を活動資金として利用していたが、現在ではスタッフにも給料が出せない状態となっている。

### ②運営時に直面した問題点と対処状況

- ・問題点「資金不足」
- ・運用時の資金面では、人件費と設備費の負担感が大きい、「ここが良い」と集まってくる人がいるため、維持していきたい。
- ・資金面での問題を解決するには、利用者を増やし採算を改善していく必要があるが、大きな施設に行けなかった人が来るところであり、この方針は貫き通したいため、手芸品などの販売やボランティアからの寄付などで支えられながら活動をしている。

## (5)取り組む上で先進的な点・工夫している点

- ・当団体は、他の大きな施設にいけなかった人がくる場所であり、そうした人達を支援していくには、地域の人達による支えが不可欠であると考えている。
- ・そのためサロンについては、地域の憩いの場として活用してもらえるよう、愛情を込めたサロンづくりを心掛けている。

## (6)今後の活動に向けて

- ・サロンについては、近所の方が友人を連れてきたり、お茶飲みやお菓子などの購入に来てくれるなど、地域の中で認知されつつある。
- ・サロンと売店が完成し、運用も軌道にのってきたので、入口に大きな看板を作るなど、PR活動にも注力し、販売活動と地域住民との交流をより充実させていきたい。

## 12. 南房総市社会福祉協議会

### (1) 団体の概要

■ 団体区分			■ 団体名
1 NPO法人	3 任意団体	5 地区社協	南房総市社会福祉協議会
2 自治会・町内会	④ 社会福祉法人	6 その他	
① 団体の設立目的			
地域における福祉事業の推進を目的とする。			
② 活動開始時期	③ 活動エリア	④ スタッフ数	⑤ 運用実績(利用者数)
2006年3月	南房総市	-	-

### [主な活動内容]

- ・地域福祉事業： ふれあい交流会、敬老会、日常生活自立支援、応急援護資金の交付など
- ・高齢者や障害者の在宅生活支援： 配食サービス、紙おむつの配布、福祉車両の貸出、高齢者介護用品の支給
- ・在宅介護の支援： 居宅介護支援サービス、訪問介護サービス
- ・ボランティア／市民活動の支援： 福祉教育推進助成、ボランティア養成講座、ボランティア活動保健の加入

### (2) 活動状況

- ・ふれあい交流会の実施
  - 各地区ごとに交流会を行い、高齢者に生きがいを持ってもらう。
  - ※当団体で実施するのは、交流会の際に各地域団体との調整、手伝いをするボランティアの養成、参加者の呼びかけ。
- ・ふれあいランチサービス
  - 月1回、無料サービスを7地区全域で実施している。
  - 資金の一部は市からの補助金で、他は一般の人から会費を基礎とした社会福祉協議会の予算で賄っている。
  - 対象は70歳以上の一人暮らしの高齢者で、配達員は民生委員とボランティアとなっており、安否確認も兼ねて実施。
  - 調理はボランティアが実施し、各地区で10～20人程度で行っている。
- ・おたがいさまネットワークまるやま
  - 丸山地区で構築したもので、当団体での地域支え合い活動の代表的なもの。
  - おたがいさまの意識醸成のため、「おたがいさまバッジ」「おたがいさまステッカー」などのPR品を製作し、配布。
  - 民生委員が高齢者宅を訪問し各戸に筒を配布し、その中に掛かり付けの病院や救急連絡先などを記入する用紙があり、記入した者を筒の中に入れて、冷蔵庫で保管。これにより、緊急時の対応がしやすくなる効果がある。
  - おたがいさまネットワークまるやまは、丸山地区地域福祉フォーラムの中から誕生したもので、こうしたフォーラムを統括しているのが、当団体となっている。
  - ※地域福祉フォーラムについて
    - 各地区で地域福祉フォーラムを行っており、内容は、住民が集まって地域の課題やニーズを話し合い、課題解決に向けた方向性を見つけていくというもの。フォーラムへの参加は自由だが実際の参加者は民生委員、自治会の区長、福祉関係者、警察、消防といった人達となっている。

### (3) 他の団体等との連携と情報発信について

#### ① 他の団体等との連携関係

- ・「自治会・町内会」「地区社協」と連携している。
- ・自治会や地区社協とは、単なる情報交換ではなく、自治会の役員や、民生委員、地区社協などと話し合いながら活動を進めるなど、一体となって活動をしている。

#### ② 情報発信の状況

- ・情報発信の手段としては、「団体のHP」「ソーシャルネットワーク」「回覧板」が主なもの。
- ・インターネットを活用した情報発信としては、ホームページだけでなく、ツイッターやフェイスブックを用いた情報発信も行っている。また、各事業についてのチラシは公的機関への配置だけでなく、病院に置かせてもらったり、これまでの活動によって得た名簿を用いて個別配布をしたりしている。



## <当団体のHP>



## <「南房総市社会福祉協議会：パンフレット」>



### (4)活動における問題点と対処状況

#### ①立ち上げ時に直面した問題点と対処状況

- ・問題点「スタッフの確保」「ノウハウ」「地域住民の認知や理解」。
- ・スタッフの確保については、地区ごとに口コミなどの人脈に頼って確保している。ただ、どの地区においても若年層のボランティアスタッフの確保が難しく、ボランティアスタッフの高年齢化という問題を抱えている。
- ・ノウハウに関しては、地域福祉フォーラムについては、結論のあるものではないため、調整などの難しさが課題。
- ・配食サービスなど、具体的な取り組みが見えているものは理解されやすいが、地域福祉フォーラムのような形のない取り組み内容が具体化されていないものは、理解を得にくく、参加してくれる人を見つけ出すのが難しい。

#### ②運営時に直面した問題点と対処状況

- ・問題点「スタッフの確保」「ノウハウ」「ネットワークづくり」。
- ・スタッフの確保については、配食サービスは、当団体の合併前(安房郡内7町村の合併により、2006年に7町村の社会福祉協議会が合併し当団体が誕生)から取り組んでいたが、当初はボランティアスタッフを探すのに苦労した。ただ、活動をするなかで、地元の中で仲間づくりができたほか、民生委員達も参加するようになり、継続的な運用ができるようになってきた。
- ・また各地区にはセンターがあり、専従の職員を配置し、常に地元と交流していることもスタッフの確保に寄与している。
- ・ノウハウについては、各地区で実施している事業は継続して行っていくことが望ましいが、各地区で意識にばらつきがあり、どのように意識を高めていけばいいのかその方法が難しい。
- ・また、地域福祉フォーラムの運用では、フォーラムは各地区の委員によって運用されているが、話し合いをまとめていくために、当団体の職員がサポートしているが、そのサポートの仕方が難しい。フォーラムのサポートを円滑に進めるため、職員に千葉県社会福祉協議会の「コミュニティソーシャルワーカー育成研修」を受けさせるようにしている。
- ・このほか、今後発生するであろう問題として、資金面の問題があげられる。現在取り組んでいる地域福祉フォーラムについては、千葉県社会福祉協議会から補助金が出ていたが終了するため。

### (5)取り組む上で先進的な点・工夫している点

- ・当団体では、様々な活動を行っているが、地域福祉フォーラムについては、取り組んでから3年が経過し、一般の住民にも認知されてきているが、事業の運営を円滑するために、機会のある度に事業の説明をするようにしている。
- ・また、地域支え合い活動を取り組む際の強みとしては、民生委員の事務局もやっていることから、民生委員の方を巻き込んで取り組むことができる点があげられる。

### (6)今後の活動に向けて

- ・地域福祉の推進に向け、より身近な地域での解決に結びつくような取り組みに向けた小地域支援体制の構築を進め、行政等に対応できない制度外の問題について、独自のサービスを開拓・提供し、安心して心豊かに暮らせる「福祉コミュニティ」の実現を目指す。

(お問い合わせ先：0470-44-3577)

## 13. 美郷会

### (1) 団体の概要

■ 団体区分			■ 団体名
1 NPO法人	③ 任意団体	5 地区社協	美郷会
2 自治会・町内会	4 社会福祉法人	6 その他	
① 団体の設立目的			
・「高齢者ができるだけ長期間住み慣れた地域で、その人らしい生活を送ることができる」ことを目的としている。			
② 活動開始時期	③ 活動エリア	④ スタッフ数	⑤ 運用実績(利用者数)
2000年4月	山武市内全域	24人	270人 ※2011年度実績(延べ)

### 〔主な活動内容〕

- ・高齢者を対象とした友愛活動(月1回3カ所:本郷生活研修センター・日向中央公民館・寿公民館)の実施。  
→地域の高齢者に会場に集ってもらい「作品づくり(コースターなど)」「盆踊り」「理学療法士、作業療法士、保健師による健康教育」「イベント(クリスマス会、紙芝居など)」などを実施。
- ・その他イベントへの協力  
→市が主催する「きらきら老後介護隊養成講座」(介護予防サポーターを養成する講座)に、受講生の現場実習先として協力しているほか、スタッフがアドバイザーとして講師的な役割なども担当。

### (2) 活動状況

- ・山武市内の3つの公民館(本郷生活研修センター、寿公民館、日向中央公民館)を拠点として、地域の高齢者の集いの場を提供。
- ・内容は多岐に跨り、花見やクリスマス会などのイベントのほか、歌・お茶会、PT(理学療法士)による軽体操、保健師による血圧測定、作業療法士による爪楊枝づくりやコースターづくりなどを行っている。
- ・また山武市保健福祉部健康支援課と社会福祉協議会が共催で行っている介護予防ボランティア養成講座の「きらきら老後介護隊養成講座」にアドバイザーとしての参加や受講生の現場実習先としての協力なども行っている。
- ・市の主催する講座などへの協力謝礼として助成を受けている他、利用者からの参加費(1回あたり100円)などによって資金を賅っている。
- ・設立して13年目を迎えるが、当初は介護ヘルパー2級の有資格者の集まりのなかで、仕事としてではなく、ボランティアとして何かをしたいと考えていた。一方、山武市(行政)において、介護保険法の施行などを背景に高齢者を支援する取り組みを実施したいと模索しており、介護ヘルパー有資格者の集まりに対して相談を持ちかけたところ、「美郷会」として活動を実施するに至った。
- ・13年近く活動を続けていることもあり、当団体で行っている地域支え合い活動に対する地域住民からの認知は高く、利用者についても口コミによって増えてきている。
- ・利用者の多くは自分で歩いて会場にきており、中には真夏でも3-4キロ歩いてくる人もいる。  
※活動に参加していただく方には体を動かしてもらう意味も含めて、自分で歩いてきてもらい、遠方からでも送迎は実施していない。遠方の方は、出来るだけ近くの拠点を利用するよう促している。

### (3) 他の団体等との連携と情報発信について

#### ① 他の団体等との連携関係の状況

- ・社会福祉協議会、市(行政)と連携している。連携内容としては、情報収集や研修等で、特に市で実施している「きらきら老後介護隊養成講座」では、実習場所としての場の提供や、アドバイザーとして講師役などを行っている。

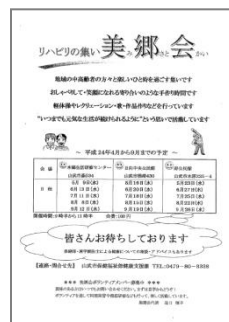
#### ② 情報発信の状況

- ・情報発信としては、ボランティアスタッフによる口コミ、チラシの配布のほか、市の広報誌を通じて行っている。
- ・また、市や社会福祉協議会を通じてインターネットによる当団体の活動状況等の紹介を行っている。

## <友愛活動:作業療法士による指導のもとでの作品づくり>



## <友愛活動:チラシ>



### (4)活動における問題点と対処状況

#### ①運営時に直面した問題点と対処状況

- ・問題点は、「スタッフの確保」「場所の確保」。
- ・スタッフの確保については、若い人の確保が難しく、現在のボランティアも高齢化してきている。
- ・60～65歳ぐらいの方のボランティアは、最近では企業の定年延長や再雇用制度などもあり、集めにくくなっている。
- ・またボランティアは女性が多いため、男性が集まりにくく、ボランティアとして継続しにくいといった問題点もある。
- ・場所の確保については、現在、活動拠点として使用している公民館の1つに関して、その公民館のエリアが新興住宅地で、他の地域から利用する人もおり、使用料の面で問題が生じている。話し合いによる調整で対応を行っている。

### (5)取り組む上で先進的な点・工夫している点

- ・ボランティアスタッフが出来るだけ負担を感じないように活動に参加できる点に注力して工夫をしている。
- ・友愛活動を実施する場合、担当するボランティアの名前を記載した当番表のようなものを作成しているが、名前を記載しているからといって、来れなくなった場合など、無理に参加を強いたりしないようにしている。
- ・かつては、来れなくなった場合に、代わりの人を割り当てるようなこともやっていたが、ボランティアスタッフの行動を束縛する面があるため、現在は行わないようにしている。
- ・また、ボランティアスタッフが料理等を作って会合に供しているが、誰が作って持ってきたのかを一切言わないようにし、精神的に負担を感じることを避ける配慮を行っている。
- ・ボランティアスタッフの善意によって運営できているため、物理的・精神的に負担を感じることなく継続して活動に参加できるようにすることに最大限の気配りを行っている。  
※活動で提供した料理等の数などについても、多くても少なくとも気にしないようにすることをミーティングを通じてボランティアスタッフに周知徹底している。

### (6)今後の活動に向けて

- ・現在サービス提供を行っている自分たちが、利用される高齢者の方たちから元気をもらうことが多く(例えば、昔の体験話を聞いたり、昔の料理を教わったりする等)、活動の継続へのモチベーションの高さに繋がっている。
- ・将来的には自分たちもこうした友愛活動などのサービスを利用できるように引き継いでいきたい。
- ・今後は、作品づくりなどの友愛活動により多くの高齢者の方が気軽に参加できるようにしていくことを重点に考えている。
- ・また、ボランティアスタッフについては、県や市などの実施している研修会などに参加し知識・スキルの向上も図っているため、そうした技能が発揮でき、当団体の活動がより充実したものになるようにしていきたい。

## 14. 住み続けたいまちづくりの会

### (1) 団体の概要

■ 団体区分			■ 団体名
① NPO法人	3 任意団体	5 地区社協	住み続けたいまちづくりの会
2 自治会・町内会	4 社会福祉法人	6 その他	
① 団体の設立目的			
ふれあいいきいきサロンを拠点として、主にリタイアした団塊の世代等の元気な「新しい高齢者」が、支援や援護の必要な高齢者を日常的に支える仕組みづくりを積極的に媒介することにより、地域に住む高齢者やその家族が安心して住み続けたいと思えるまちづくりを推進し、地域福祉の増進に寄与することを目的としている。			
② 活動開始時期	③ 活動エリア	④ スタッフ数	⑤ 運用実績(利用者数)
1988年4月	大網白里町季美の森地区	8人	1回あたり: 30-35人 ※生き生き教室

注) エリアの標記について、大網白里町は、2013年1月より市制施行されたが、調査時点に合わせ大網白里町として扱っている。

### [ 主な活動内容 ]

- ・「いきいき教室」教室の運営
- ・外出支援サービス  
(無償移動サービス、時間料金なし、ガソリン代100mあたり3円)
- ・笑いのヨガ  
(ラフターヨガによる健康推進活動、日本笑いヨガ協会笑いヨガリーダー1名所属)
- ・生活支援サービス

### (2) 活動状況

- ・サロン活動  
→『いきいき教室』の運営を行っている。健康的な生活をおくるために、運動(身体を動かす)、意識啓蒙(健康であるために)などを通じてふれあいと健康づくりを目指している。  
また、2013年度に、町役場との共同事業で笑いヨガを『いきいき教室』で行う予定となっている。
- ・地域支え合い活動を始めたのは、これから増加してくる高齢者にも元気な人は多く、地域で支援が必要な高齢者を介助するとした場合にしても、元気な高齢者がもっと活躍すべきだという思いがきっかけとなっている。
- ・団体の立ち上げの時には、自治会、社協からの寄付金を活用した。

### (3) 他の団体等との連携と情報発信について

#### ① 他の団体等との連携関係の状況

- ・「自治会・町内会」「NPO法人」「社会福祉法人」「地区社協」「任意団体」「自治体」と連携している。
- ・地域支え合い活動を円滑に進めていくためにも、多くの団体と連携すべきであるとしている。連携関係が最も強いのは自治会であり、当団体の活動の認知・理解の浸透を図るため、自治会との接点を多く持つようにしている。
- ・団体同士の連携関係をつくる上で、行政機関が仲介機能を持ってくれれば、関係づくりが進めやすくなるとしている。

#### ② 情報発信の状況

- ・「ソーシャルネットワーク」「新聞広告」「回覧板」「セミナーなどで告知」で情報発信している。

## <当団体のfacebook>



## <YouTubeによる「地域福祉移動サービスの説明」>



### (4)活動における問題点と対処状況

#### ①立ち上げ時に直面した問題点と対処状況

- ・問題点「ネットワークづくり」「高齢者などの理解」「地域住民の認知や理解」。
- ・ネットワークづくりについては、大網白里町に自治会は117カ所あるが、老人クラブ等との連携ができていない。こうした中で、当団体単独で出来ることは知れているため、他の団体との連携の必要性を感じていた。そのため、近くの大学(城西大学)との連携関係をつくった。
- ・高齢者などの理解、地域住民の認知や理解については、大学の先生を呼んで説明会などを年に数回開催するなどの取り組みを行った。

#### ②運営時に直面した問題点と対処状況

- ・問題点「資金不足」「ネットワークづくり」「地域住民の認知や理解」。
- ・資金不足については、活動を開始して間もないこともあり、引き続き問題となっている。現状の対策としては、自治会からの寄付のほか、個人単位での持ち出し合い。
- ・ネットワークづくり、地域住民の認知や理解については、代表者の人脈で行政機関(町役場)などと協力しながら関係づくりを行っている。また、近く大学とは協定を締結し、共同で説明会を行うなどの連携関係ができています。

### (5)取り組む上で先進的な点・工夫している点

- ・無償移動サービスについては、利用者からの評価が高く、リピート利用者が多くなっている。利用者とのコミュニケーションを通じて福祉ニーズを把握できるのもメリットになっている。
- ・このほか、地域支え合い活動を進めていくには、他の団体と連携関係をつくっていくことが重要であり、当団体では大学と協定を締結し活動を行っている。

### (6)今後の活動に向けて

- ・今後は、大学に加え、行政や専門家などを加え一体となって取り組んでいけるようにしたい。